

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102485
法人名	医療法人社団康生会
事業所名	グループホーム暖暖
所在地	香川県高松市室新町1-8 (電話)087-815-1231

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価決定日	平成20年11月14日

## 【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年7月1日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	22人 常勤 13人, 非常勤 8人, 常勤換算 6.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 4階建ての2階～4階部分
------	----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	月額 1,500円	その他の経費(月額)	月額 450円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月17日現在)

利用者人数	27名	男性	2名	女性	25名
要介護1	2名	要介護2	10名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	71歳	最高	101歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松大林病院 栗林病院 前田病院 大塚歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、医療機関を母体に1階は同一法人のデイサービス・居宅支援事業所を併設した2階～4階部分で、日常的に連携し支援している。栗林公園に近く自動車の幹線沿いであるが、ホーム内は、頻繁に走行する自動車などの騒音は感じられない。食堂兼居間は、穏やかな照明で落ちついた雰囲気、畳のコーナーでは利用者が洗濯物をたたんだり、食卓で野菜の皮むぎをしている利用者もおり、家庭的な雰囲気である。庭の桜やベランダ越しに見える室山は、秋に美しく紅葉して季節を感じることができる。利用者の思いを大切に、その人らしく残存機能を活用して自由に行動し、笑顔で安心して過せるようにスタッフ同士よく話し合い、介護の統一を図りたいと、リーダーやスタッフは前向きで取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価後、ユニット会議で改善点を具体的に討議し改善課題に取り組んでいる。地域に密着したサービスの支援は、近隣の方との交流が徐々にできつつあり、今後を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員が記入して評価の意義を理解し、ユニットで話し合っ取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催され、会議内容を全スタッフに周知し共有している。地域に密着した施設として、サービスに活かされる会議のあり方を再検討しており、今後、前向きに取り組まれることを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の活用は殆どないが、ホーム便りや家族の面会時に意見や苦情を聞くようにしている。また、利用者の状態は電話を利用して報告や意見を聞いて対応することも多い。家族の了解を得て外出の協力を得るなど、利用者の要望や不安を解消している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会活動には参加していないが、外出や散歩時に近隣の方と挨拶を交して交流を図るように努めている。地域住民がホームの機能を理解し、災害時の協力体制が確立されるなど、地域との連携強化のためにチームでの取り組みが望まれる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念と、各ユニット独自の理念をつくりあげているが、地域との密着を考慮した理念になるまでには至っていない。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットで独創的に作成し、事業所内に表示しており、ミーティング時に確認するなどスタッフは共有して日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の踊りのボランティアが年二回訪れている。外出や散歩の時に地域住民と挨拶を交している。	○	地域の自治会活動には参加していないが、事業所の庭の落花をフェンス越しに近隣の方が日々拾って清掃して下さっており、言葉を交すなどして緩やかに地元の人々との交流が始まっており、今後が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員が記入して評価の意義を理解し、ユニットで具体的な課題と改善に活かすように努めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き、ホームの状況などを報告して意見交換をしている。	○	運営推進会議で地域に密着した支援サービスに活かされるように、会議のあり方などの再検討をしており、今後を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市の担当者が参加しているが、それ以外では交流の機会は少ない状況である。</p>	○	<p>市の担当者などに働きかけ、情報交換や現場の実態を共有し、地域に密着した施設としての課題解決などに取り組む、サービスの質向上を期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りや面会時に、近況や金銭管理の報告をしているが、その都度、個々に電話で状況を報告することが多い。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の利用は殆どないが、家族などの面会時間をフリーにしており、意見や苦情を聞いて運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニット間での異動や離職は最小限に抑えているが、行事などホーム全体での交流が日常的にあり、スタッフは利用者や馴染みになっている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会などの参加の機会は少ないが、実際現場で折に触れて管理者やリーダーが指導をしている。</p>	○	<p>リーダーは、スタッフが統一した声かけや支援ができるように、全職員の資質の向上に取り組んでいる。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の機会は少ない。</p>	○	<p>県グループホーム協議会では、相互に訪問や勉強会をするなどの検討がなされているようであるが、職員も資質向上のために交流を望んでおり、今後を期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームでお茶を共にしたり、1階デイサービスを利用して馴染むようにするなど、家族などと相談して工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や菜園など本人の意向や得意なことを、力量に応じてその人らしく自由に行動してもらえるように配慮し、共に学び支え合う関係をつくるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や日常の会話から希望や意向を把握し、その人らしい生活が過ごせるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の業務において、申し送りを確実にし、個人ファイルなどに詳細に記載して利用者の状態を把握し、チームで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画の見直しを行っているが、利用者の個別担当者をきめて、より細やかな気づきを大切にして現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にデイサービスや居宅支援事業所が併設されており、地域住民の要望に応じて連携し協力して対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を受診するように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態を把握し、重度化や終末期のあり方を、家族や医師と話し合って全職員が共有し支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルなど個人情報の書類の取り扱いに注意するように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を最優先に、残存機能を十分活かして、その人らしく過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れて、各ユニットで独自に工夫して献立を作成している。食事の準備や片付けを利用者と共に楽しく会話を交しながら食事をし、和やかな雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に最低3回と決めているが、日時は可能な範囲で利用者の要望に合わせて、入浴できるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や日頃の会話などから、力量にあった役割や楽しみを把握し、生きがいのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように近隣に散歩に出かけているが、利用者の要望によって、買い物や外食に出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鈴などを付けて開閉が分かるようにしており、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力で避難訓練を実施している。	○	災害や火災時に地域住民の協力が得られるように、運営推進会議などで働きかけ、具体的な避難方法を検討することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の指導を受けており、食事や水分の摂取量をチェックしているが、利用者は食欲旺盛で完食される方が多い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは食堂兼居間で広く、台所や洗面所が設置され、畳のコーナーがある。ベランダに通じる大きな窓からは、桜や紅葉する室山を眺めて季節を感じるができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具を配置したり、カーテンや寝具は家族と相談して本人の意向を大切に居心地よく過ごせるように工夫している。		